



# 町内会短信 5月号

2022年5月1日

川治中央第一町内会長

金山征晴

**退任のご挨拶** [前会長 柴田鶴子] 令和4年4月17日の町内会総会において役員改選があり、私も会長職7年を経て退任することになりました。町内会役員の方々及び町内会々員の皆様の暖かいご理解とご支援とご支援ご協力を得て何とか会長職を全うすることができ、誌面を借りて厚く御礼申し上げます。退任後 相談役を申しつかり、この町内会短信の一隅をお借りして、小さなコラムを引き続き担当させて頂くこととなりました。昭和54年、今は亡き当時の斎藤正雄会長より福祉部長を拝命、副会長として会長と43年間の永きに渡り、人間成長の場としても貴重な体験をさせて頂きました。「使命」とは「命を使ってすること」であるとか…、残された私の命をどう使っていか模索中です。今後とも町内会の皆様との末永いお付き合いを宜しくお願い申し上げます。

**就任ご挨拶** [新会長 金山征晴] 町内会の皆様、私はこの度新年度を迎え会長に就任しました。コロナ渦で総会も書面決議となる中、いささか歯切れの悪い役員改選となりましたが、新役員一同今期もこれまでに増して住みよいまちづくりを目指して励んで参ります。新年度にあたり人生の節目を迎えた方々も多いことでしょう。希望も不安もいつもよりは何かと多いことでしょうが、私は町内会長という重責を背負い込む事になり、希望よりは不安の方が大きな気分でおります。ましてや前任者の細やかな心の行き届いた会長ぶりを見てきたので、目の前がとてつもなく高い山に思われます。しかしよく考えるとそんなに心配することはありません。今の役員会のメンバーには熱意と実践力に支えられたチームワークがあります。コロナ渦の中、思うように行かないことも多いのは事実ですが、少しでも可能な限り頑張っていくつもりです。どうかよろしく願います。

## 4月の町内会活動報告

- 4月 4日(月) **会計監査** (令和3年度会計報告)
- 4月 9日(土) **総会資料作成・配布準備**
- 4月 17日(日) **第一回役員会** (この日予定していた総会は中止→書面決議)
- 4月 22日(金) **藻岩地区連町理事会** (新会長出席)

## 5月の町内会活動予定

- 5月 4日(水) **どんぐり公園清掃** (役員 9:30)
- 5月 8日(日) **町内会春の大掃除** (午前中)
- 5月 11日(水) **町内会資源回収日 and ふれあいガーデン整備** (9:30)
- 5月 18日(水) **どんぐり公園清掃** (Aグループ 9:30)
- 5月 25日(水) **ふれあいガーデン整備** (9:30)

※ お花見・そよ風コンサートは中止といたします

**追悼** 岸林和子様(8条3丁目)行年57歳

去る4月15日ご逝去されました。町内会青少年部長を6年間もお務め下さり、大変お世話になりました。心より冥福をお祈りいたします。

裏面へ →

## 郷土史より (視野を広げて) —北の先駆者・近藤重蔵(4)

郷土歴史家 吉田邦行



※ 本来ならば連載は13月で打ち切りでしたが、連載継続を望む声がたくさん寄せられたので、吉田氏の了解を得て当分の続行が決まりました。吉田邦行氏へ厚く御礼申し上げます。[柴田田鶴子]

◎第五次探検 文化4年(1807)6月15日～同年12月8日

江戸—箱館—利尻島—宗谷—手塩川—石狩川奥地—江別—松前—江戸

今回は初めての西蝦夷地行きである。宗谷から未踏の手塩川をさかのぼり石狩川源流に進み、そこから船で石狩川を下った。この調査で「雄大な石狩川本流、支流を物流の手段として利用すれば、容易に物資・生産物を運ぶことができる。まわりに広大な平野があるので作物を生産するにも心配ないはず」と考えたのであった。幕府が本府を構えるのであれば、ここが最もふさわしいと確信するのであった。その場所は、石狩川に面した江別の対雁(つしかり)であった。

江戸に帰った重蔵は、すぐさま將軍・家斉に謁見を許された。そこで石狩の重要性について力説した。家斉は深い関心を示し、更に書面で詳しく状況をしたためるよう命じられたため、「総蝦夷地要害之歸儀ニ付心得候趣申上候書付」を書いて提出した。これらの探検の功績により文化5年、重蔵は書物奉行を任じられた。ここでの重蔵は、まわりが驚嘆する仕事ぶりであった。在任11年間に数々の書物を執筆した。それは蝦夷地の地理に始まり歴史、政治経済、自然科学など広い分野にわたり、その数、千五百巻にのぼるといわれている。しかし、有り余るエネルギーのため自由奔放に振る舞い幕閣にもづけつけ意見を言い、やがて幕閣から不遜とみられ大坂(明治時代から大阪)弓矢槍奉行に左遷された。だがそこでも自由奔放な行動のため2年半で解任され、江戸で永久小普請役を命じられた。

以前に重蔵は、元博徒・塚越半之助から土地を購入し、別荘と庭園を増築し大坂赴任のとき管理を半之助に依頼した。江戸に戻ってみれば半之助は、勝手に商売に利用していた。重蔵は何度も明け渡しを要求したが返してくれず、あげくには嫌がらせや乱暴狼藉を受け、一家は窮地に追い込まれた。このような事態を見兼ねた長男富蔵が、我慢の限界に達し半之助一家を殺害した。この事件により富蔵は八丈島へ流罪、重蔵は監督不行き届きによって改易(かいえき・刑の一つ、身分・屋敷を剥奪)処分となり、近江大溝藩へ御預けの身となった。だが重蔵はまったく臆することなく、生活も慣れるにつれ藩士やその子弟に、漢詩や蝦夷地の講義を行った。幽閉から3年後、病が元で奔放に生きた無類の豪傑は息を引き取った。

しかし、重蔵の死後25年の嘉永6年(1853)、御咎め御免となる。そして82年後の明治44年9月15日、明治政府が特旨を持って北方開拓の功労者として「正五位」を授与し、重蔵の偉大な功績を称えたのである。重蔵こそ蝦夷地開拓の最大の功労者で、「北の首都・札幌」を胎動させた人物であることを、北海道に営む我々は強く認識したいものであります。なお、近藤重蔵の壮大な夢は松浦武四郎によって引き継がれた。武四郎は、重蔵の案をさらに詳しく調査し、石狩川に面した江別の対雁から地の利、治水を考慮して現在の札幌に至ったのである。さらに開拓判官・島義勇は、現在の中央区南1条西1丁目、南東角を測定の基点として定め、街造りが始まった。そこは対雁から方角・西南西15kmの地点であった。 (完)

◆次回は重蔵の息子近藤富蔵をとりあげます。そちらもご期待ください。